XB10-299
0007952278

博物館藏版

教草 第六
野蚕一覧

凡そ日用に供する衣食の如き人皆之を衣とし之を食として何たるを知らざるところそれ其物品を改正良善にするの術に暗く従て新規の發明なくして國産を繁殖せしめて各其業に就く事を知らず故に父兄たる者其子弟をして幼時より各業の大畧を知らしむることあれば他日殖産の基となるべし嚮に明治六年澳國博覧會出品の際に乗じ各種職業の教草を編成せしめ画図を加へ以て童蒙に便せしむ然るに其版第一より第廿四まで昨八年七月の火災に罹りしより今之を再刻し兼て従前の謬誤を正し遺漏を補はしむと雖も其圖の舊版を再刻する者の如きは鮮明ならざるあり看者之を恕せよ且我國産の多き此一部の盡す所に非ず此餘の如き以て他日に譲る

明治九年二月　田中芳男記

第一 稲米 第二 糖製 第三 養蚕 第四 生糸 第五 樟脳
第六 野蚕 第七 葛布 第八 苧麻 第九 草綿 第十 纖維草木
第十一 索麪 第十二 葛粉 第十三 藍 第十四 青花紙 第十五 製茶
第十六 烟草 第十七 漆 第十八 蒔繪 第十九 蠟 第二十 白[illegible]
第二十一 疊表 第二十二 香蕈 第二十三 製紙 第二十四 蜂蜜 第二十五 油
第二十六 [illegible]脂 第二十七 澱粉上 第二十八 澱粉下 第二十九 褐[illegible] 第三十 豆腐

版權所有

教草 第六 野蠶一覧

野蠶ハ春蠶と異なりて其養法甚簡易にして而も其利潤ハ春蠶に稍頡頏す屢し且其絲之を春蠶に比すれバ最強靭にして頗る光澤あり殊に其食餌とする所の櫧櫟等ハ素より種植を俟ずして成長し肥糞ニ因らずして繁茂すれバ彼桑柘の地を撰ミて植え糞を與て培養するものと其辛労の多寡智者を待ずして知るべきなり

此蟲の形状ハ恰も春蠶に彷彿として其體ハ短小なり頭頸極めて肥大にして殆と秦椒蠋に類せり之を櫧櫟等に放ち置けバ自ら其葉を食ミて絲を吐き繭を作るなり

此蟲を養ふに山飼と桶飼との二法あり山飼ハ先づ前年より其山の悪草及び悪葉の雜木を悉く伐取り唯食餌となるべき樹を高さ九八尺より一丈許に芟り尤四方に何程にても見許ひ其下に小き臺を置き手にて自在に蟲の棲止する枝を攀援せらるゝ様になすべし

桶飼ハ立春より八十日許過し之を飼んとする庭園を悉く洒掃し鳥獸の去来せざる様にして四斗入の桶に水を十分に貯へ緊く蓋をして水の見えぬ様になすべしと此蟲ハ性水を嗜む故に水を見れバ飲んとして自ら水に墜ち溺れ死すれバなり而して蓋の中央に二穴を穿ち椽櫧等の小枝を高二三尺許に切て挿むなり

蟲に手を觸るゝ事を禁ず都て粗暴に取扱ふ時ハ若し未ざ成長せざる時ハ粗暴にすれバ長じて後必ず種々の疾を生じて斃るゝなり慎まざるべけん哉

食餌に供する樹葉ハ麪櫧櫟槲木「ミヅナラ」等都て山林に生ずるものを與て宜し二日に一度桶水を換へ三日に一度舊葉を換て新葉に就しむ之を換るにハ新葉の枝を以て陳葉の枝に斜に立て置けバ彼の陳葉に附着せる蟲悉く新葉に遷轉するなり

孵出して後十日も過れバ三日許も食を絶つハ是所謂休眠なり即ち蠶と同く四度の休起ありて大抵六十餘にして繭を作るなり

繭となりてより凡六日許過て枝と共に芟取り十日許も過て其葉を悉除て繭のミ筵の上に一粒並になして一室の内烟氣の通せざる處に置なし大抵繭を作りてより廿五六日も過て蛾出るなり

蛾の出る期限甚長し立秋より秋分頃迄出るなり是他蠶と異なる所なり蛾を入る籠ハ横二尺許縦一尺弱にして底ハ取はづし自在なる様に造り内に雌雄等分に入れ二日陰の細露ある処に置き四五日過て底をはづせハ雄蛾ハ残らず飛去り雌蛾のミ残り留るなり而して前の如く底を閉置バ其内にて卵を産むなり

繭を蒸て絲を製るにハ繭を蒸籠に入て其上に食餌なる青葉を刻て繭とよく混和して恰も赤飯を蒸すが手段にし大抵一時間許も蒸して取出し平なる籠の中に入れ一日陰の風氣通暢の處に置けバ漸時にして乾燥す既に二日も過て其上に紙若くハ布を掛て日光に曝すべし 詳細の事ハ爰に尽し難し養蠶集成山繭の部に詳なれバ就て看るべし

信州にてハ野蠶の外に又「ウスタビ」と称するものあり一名「ヒクメ」又「ツリビク」といふ是亦野蠶の種類にして其産所も亦相似たり其繭ハ野蠶の繭より稍小く一方ハ尖鋭にして一方ハ截断せるが如し其色亦野蠶に似て其質ハ頗る堅し是亦絲を製すべきものなりと雖も未だ之を製せし人あるを聞ずハ唯山童の玩弄に供するのミ此蟲の蠋なりしとき人戯に其背を押せバキウキウと音をなせり是他蠋に見ざる所なり野蠶に似類せるもの故に茲に附録す

明治五年冬 博物局

信夫粲述

菅蒼圃画

男爵田中芳男旧蔵 先代田中芳男氏寄贈 昭和八年
B 65993
東京大学総合図書館